

# あーかす

米子医療センターマガジン#32  
May 2021 (令和3年5月号)



巻頭言

新年度のあいさつ

## 原点回帰

がん看護特別講演会

～せん妄と認知症ケア～を開催して

米子医療センターでの初期臨床研修を振り返って

米子医療センター活動報告

New Face

地域医療連携室の掲示板

Topics File～栄養管理室の掲示板

Enjoy! 学生 LIFE のために



## ■ contents ■

- 03 巻頭言 新年度のあいさつ **原点回帰**
- 05 **がん看護特別講演会**  
～せん妄と認知症ケア～を開催して
- 06 米子医療センターでの初期臨床研修を振り返って
- 08 米子医療センター活動報告
- 09 New Face
- 12 地域医療連携室の掲示板
- 13 Topics File～栄養管理室の掲示板
- 14 Enjoy! 学生 LIFE



患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO(米子)の「Y」、MEDICAL(医療)の「M」、CENTER(センター)の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

## あーかす

あーかす(Arcus)とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc(弓、橋)+Us(私たち)で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。

## 巻頭言

# 新年度のあいさつ 原点回帰

院長 長谷川 純一

昨年は暖冬でしたが、この冬はラニーニャ現象で寒くなると言われていました。案の定、年末年始に大雪となり、丁度10年前の雪害を思い出し、恐れましたが、それほどではなく、大山などのスキー場には恵みの雪となったようです。ただ、毎年のように続いた暖冬によるスキー場関連の経営不振で、閉鎖されたり休業、縮小など営業面の厳しさと、新型コロナウイルス感染症対策による経費増大や外出自粛ムードなどもあり、大山では折角の大量降雪も十分利活用できなかったようです。ただ、それ以後大雪はなく、最低気温が氷点下4度や5度となり、水道管の破裂が多かったり、病院でも暖房による使用電力量が想定を上回ったりしましたが、その後の気温上昇で桜の開花が早まりました。さらに4月に最高気温が25度を超す夏日となったと思うと、またまた低温になったり、何ともちぐはぐな1月～4月でした。

一方、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、海外との往来や過密な状況の避けられない大都会のみならず、人口の一番少ない鳥取県内においてもいくつかの患者クラスターが発生し、鳥取県西部医療圏におきましても感染症指定病院以外の急性期病院でも患者の入院を受け持つ事態となりました。また、同ウイルス感染症の入院患者さんへの波及防止のため、昨年からの面会禁止措置を続けざるを得ず、入院患者さんには大変ご不便を強いる結果となり心苦しく思います。しかし、ひとたび院内へ感染が波及すると、免疫抑制下にある腎移植、血液幹細胞移植を受けた患者さんのもとより、免疫能の低下している各種がん患者さんにあつという間に感染が広がってしまう恐れがあり、病院が治療の場ではなくなってしまいます。このことから、面会禁止のみならず、玄関入り口に置いた自動体温測定器や、移動歴などの問診票記入、マスク着用など外来患者さんには、大変ご迷惑をおかけしております。しかし、一方で、こ

のことは安心して当院で受診いただくための措置であり、外来患者さんのためでもある事をご理解いただければ幸いです。

また、この新型コロナウイルスが猛威を振るっている先進国の中では、ワクチン接種の開始がほぼ最後発となったわが国ですが、その先陣を切って安全性の確認目的の臨床研究として国立病院機構の内の100病院と、労災病院等の職員を対象とした先行接種が2～3月に行われました。これには開発が先行した米国ファイザー社のワクチンが用いられました。このワクチンは新型コロナウイルス表面のスパイク蛋白の遺伝情報となるmRNAを含んだ脂質（PEG）のナノ粒子を筋肉注射するものです。ウイルス感染症にも、一度罹患するとほぼ一生罹患しないものや、毎年でも繰り返すもの、さらには2度目には重症化しやすいものなど種類があります。新型コロナウイルス感染症の全貌が未だわかっていないことから、ワクチンの発症予防効果の持続期間などもまだ完全には判明していませんが、このワクチンこそが現在の社会・経済の難局から脱する現時点で唯一の方策です。そのワクチンのわが国における安全性確認のための先行接種の対象病院として当院が選定されたことは名誉なことと思います。万全の体制で臨み、幸い、重篤な副反応は認めないまま試験は終了いたしました。また、この先行接種以後も当院では継続して優先接種に移行し、職員及び委託社員などの8割以上が早々にワクチン接種を終え、集団免疫状態に達していることとなります。このことは、当院が職員を介した感染症クラスター発生の可能性を大きく減らし、安心・安全な病院である事を意味します。患者さんには安心して受診いただける事をご理解いただきたいと思います。

次ページへ続く→

最近急増して第4波となっている新型コロナウイルスは変異型であり、感染力が強いと報告されていますが、不要不急の外出や三密を避け、特に飲食の際の感染に気をつけることが肝要とされています。マスクの上手な使用に心がけたいものです。

さて、新型コロナウイルス感染症については肅々と対策を取っていくこととして、本来の病院業務についてもしっかりと役目を果たさなくてはなりません。当院の第4期中期計画の真ん中、3年目となります。2020年度の病院目標であった「病院機能の磨き上げ」に関してはコロナ禍において十分な実績を残すことができたか大いに疑問ですが、種々の反省に立って、21年度の病院目標を「原点回帰」としました。これまで、年々高みを目指してきたところですが、思わぬ所にほころびがあったり、基本的なことでも先延ばししてきた部分があるようです。今から75年前の1946年、旧陸軍病院のルーツから、広く戦後の復興を支える国民の健康を等しく守る立場の国立病院として実質的にスタートした時、さらには国立病院機構が独立行政法人化された後、2014年に中期目標管理型法人として、また、同時期に建て替え整備された新病院として船出した当院を原点として、高みに挑んでいった気持ちを再確認し、新たな高みを目指したいという意味で定めました。そして、表のような4つを重点的に目指したいと思います。

まず第1点目は、昨年と同じですが、医療者-患者関係を重視し、患者さんの医療へのアドヒアランスが高く維持できるよう、患者・家族の目線に立ったきめ細やかな支援ができる体制整備を目指します。昨年度以上に徹底いただき、この点における好評価が増える事を期待したいと思います。また、地域の先生方からの紹介を中心とした医療ですが、学際的あるいは境界領域の疾患などもあり、紹介医と患者さんの思いのミスマッチなどもあるようです。これまでの総合診療「総診」を「総合内科」として総合内科専門医の新たな着任も得て、充実させることにより、紹介を容易にし、きめ細やかな診療を期待したいと思います。2点目は医療安全・院内感染対策の基本に立ち返り、マニュアルなどを

再整備することとしました。また、責任者の負担軽減も含め次世代のリーダー養成が必要です。3点目は少数精鋭の当院には是非とも必要と思われることで、ポジティブ思考を基本に効率的な働き方を追求する事を掲げました。4点目は教育・研修の機会を確保すると共に、国立病院機構という公的病院の責務の一つであり、当院で特に不足している研究機能の強化を図る事としたいと思います。

昨年度は、電子カルテシステムの更新が大きな課題でしたが、多少の手直しを残すものの、関係各位のご尽力により無事乗り切ることができました。この点につきまして心から、感謝したいと思います。第4期中期計画の第1点目に「地域に必要な分野の専門的医療機能を充実させ、第三者評価を受ける」事を掲げたとおり、21年度をその仕上げの年として、次年度に向けた受審準備を進めたいと思います。

がん診療に関し、丁度コロナ禍で、がん患者さんの受診控えがあったかも知れませんが、がんの発生、進行は待つはくれません。これも原点回帰、仕切り直して課題克服に向かいたいと思います。一つ嬉しいニュースがあります。血液のがんに対する当院の造血幹細胞移植治療に関して、その体制と実績が評価され、この度4月1日より日本造血細胞移植学会のカテゴリー1の施設に認定されました。主に大学病院が該当している全国で100施設127診療科の一つとして、勿論鳥取県では唯一の診療科として認定されたわけですが、これまでの努力が認められたものとして、ひたすら尽力いただいたスタッフ各位に敬意と感謝の意を表したいと思います。この分野の本県における最後の砦としてこれからも充実させていきたいと思います。

いずれにしても、鳥取県西部医療圏において必要とされる米子医療センター実現に向け、全職員がポジティブな気持ちで取り組んでいきたいと思います。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

## 2021(令和3)年度 病院目標



### 「原点回帰」

1. 患者目線に立った医療の提供
2. 医療安全の取り組み強化
3. 主体的で活力ある職場環境づくり
4. 教育・研修、研究の推進

# がん看護特別講演会 ～せん妄と認知症ケア～を開催して

当院は、国立病院時代から鳥取県西部地域のがん診療に力を入れてきました。それに伴い、がん領域の認定看護師の育成にも貢献してきました。現在、9名のがん看護認定看護師が活動しています。

がん看護5領域（緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、がん放射線療法看護、乳がん看護）の認定看護師が揃う病院は西部でも数少なく、当院の魅力の一つでもあります。



がん化学療法看護認定看護師  
永瀬 美沙

毎年、がん看護認定看護師が企画運営する「がん看護特別講演会」を開催しています。この講演会とはがん看護に関連したテーマで、外部講師にご講演頂き、地域の看護師をはじめとして医療従事者の方々に広く参加して頂いており、西部地域のがん看護を考え交流する良い機会となりました。しかし、コロナ禍にある今年は、地域の方々に公開することができず、院内看護師対象に院内医師による講演会を令和2年11月10日(火)に行うこととなりました。



講演する松波先生

当院は緩和ケア病棟20床を有し、常勤の緩和ケア内科医師2名が勤務しています。そこで、今回は緩和ケア内科松波馨士医師に「入院患者におけるせん妄と認知症のケア」というテーマでご講演頂きました。

せん妄とは、急性に生じる意識障害を主体とした精神神経症状の総称です。高齢者が入院を契機に、薬剤の使用や脱水等の病態を背景に、環境の変化や不快な身体症状が加わり、時間や場所が分からなくなる見当識障害や混乱をきたすことが多くあります。

せん妄は終末期がん患者の30～40%に出現し、看取り期にはがん患者の90%が経験する精神症状といわれています。せん妄はマネジメントにより改善できる症状であり、その点で認知症とは異なります。今回松波医師より、せん妄のサブタイプやせん妄に関連する因子、スクリーニングについて解説いただき、整理することができました。

せん妄の促進因子である、環境変化・感覚遮断・身体拘束・不快な身体症状（疼痛・尿閉・便秘・発熱等）に対して、予防的に看護介入することでせん妄予防やマネジメントが行えることを再確認できる機会となりました。また、過活動型せん妄治療に使用する抗精神病薬や、せん妄ハイリスク患者に対する睡眠薬の選択についても理解でき、臨床ですぐに活かせる学びを得ました。そして、せん妄を呈するがん終末期患者の家族の苦痛を知り、家族ケアの在り方を考える機会を与えていただいたように思います。

今回、がん患者さんが多く経験するせん妄と認知症へのケアを医師の立場から講演頂き、看護の役割や看護介入の重要性を再認識することができました。認知症を併せ持つ高齢のがん患者さんが増加する中で、高頻度で出現するせん妄にどのように予防的に介入していけるか、看護の力の見せどころであるともいえます。認知症の患者さんに多く関わってきた緩和ケア医師である松波医師の存在は大変大きく、今後もチームでがん患者さんへのケアを考え悩み、少しでも良いものができるよう努力していきたいと思っております。

## せん妄と認知症

	せん妄	認知症
発症	急激	徐々に進行
期間	数時間～数日	月～年単位
注意	焦点を当て、維持し、転換することが困難になる	重度の認知症を除き保たれる
意識	変動	概ね正常
会話	一貫しない、文脈がまとまりなくなる	まとまっているが、単語が出てこないことがある
原因	身体条件、薬剤等の物質	神経学的変性

回復可能なこともある!!      回復不可能

## せん妄に関連する因子

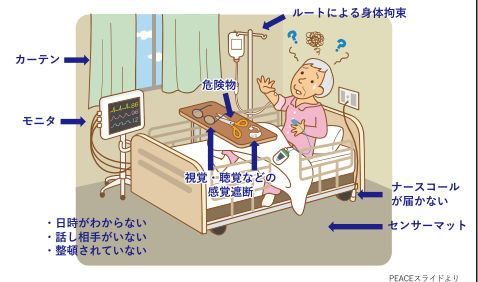
**準備因子**  
脳機能の脆弱性  
・高齢  
・認知症  
・脳梗塞既往 etc

**促進因子**  
発症したせん妄を重篤化・遷延化する要因  
・環境変化  
・感覚遮断（視力・聴力障害 etc）  
・身体拘束  
・不快な身体症状（疼痛、尿閉、便秘、発熱、口渇 etc）

**直接因子**  
せん妄そのものの原因  
・薬剤（オピオイド、睡眠薬、抗不安薬、ステロイド、抗コリン薬、抗ヒスタミン薬 etc）  
・血液検査（高Ca血症、低Na血症、高アンモニア血症、腎機能障害、貧血 etc）  
・脱水、栄養障害、感染症、呼吸不全、脳転移 etc

→「脳の疲れが原因」と説明すると、納得される家族は多い

## せん妄の予防的ケア（環境調整）



## 家族ケアのまとめ

- ①せん妄の「何がづらいか」は、患者と家族で異なる
- ②安易に「せん妄」で片づけてはいけない
- ③看護師が「必要な時にそばにいてくれること」は家族の助けになる
- ④せん妄体験を患者・家族がどのように捉えているのかをアセスメントし、個性を重視した対応をすべき

Bonbright W, et al. Psychosomatics. 2002; 43: 183-194  
Morita T, et al. Psychogeriatrics. 2010; 10: 374-377  
Morita T, et al. J Pain Symptom Manage. 2010; 38: 179-188  
Morita T, et al. J Pain Symptom Manage. 2016; 52: 664-674

## 米子医療センターでの初期臨床研修を振り返って



### 初期臨床研修医 乾 奈美

まず、2年間の初期臨床研修を終えるにあたり、ご指導頂きました先生方および病院スタッフの皆様、そしてすべての患者さん・患者さんのご家族に心より感謝申し上げます。皆様のお力添えによって大変有意義な研修生活を送ることができました。

振り返ってみると、診療技術はおろか、カルテの使い方すらままならない状態で始まった研修で、検査ひとつ、処方ひとつ出すごとに毎度これで良いものかと緊張していた頃が思い出されます。また、研修診療科が変わるごとにわからないことが山程出てくるのは当たり前で、自分なりに勉強したつもりでも診療内容を理解しつついくことがやっと、という事も数多くありました。患者さんの質問ひとつにも自信を持って答えられない自分の不甲斐なさ、無力さを度々痛感した2年間でもありました。

徐々にできることが増えてきたとはいえ、まだまだ学ぶことが多く勉強の毎日です。未熟さゆえスタッフの皆様には大変なご迷惑をおかけしたと思うのですが、いつも温かく対応して頂き本当にありがとうございました。

また、私事ではありますが昨年妊娠出産を経験し、研修を一時中断したため仕事と育児との両立に不安を抱えてのリスタートだったのですが、研修担当の先生には柔軟にご対応頂き、しっかりと自分の時間を持ちながら研修を終えることができたことに感謝しています。

今後は麻酔科専攻医として鳥取大学附属病院で研修させていただく予定ですが、初心を忘れる事なく日々精進して参ります。今後も地域の皆様にはお世話になりますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 初期臨床研修医 井川 大輝

私達初期研修医は、様々な考えを持って将来個々の専門科を選択しますが、初期研修ではその専門領域に捉われず、今後の医師人生に活かすべき基礎知識を実際の臨床の現場で学びます。

ここ米子医療センターでの研修も2年経ち、多くのことを経験しました。初めは右も左も分からず、帰宅後は自分自身の不甲斐なさに反省する毎日でしたが、指導医の先生方は熱心に指導して下さり、次第にできることが増えていくことに喜びを感じるようになりました。特定の診療科を研修中の時でも他科の先生方への相談もしやすく、安心して研修生活を送ることができました。また、研修医の人数が少ないため積極的に多くの手技を経験することができ、月末に開催される研修医の勉強会を含め自分自身で経験した症例を振り返る時間もあったため、理解を深めることもできました。

また、院内での研修のみならず、学会発表や国立病院機構では年に複数回「良質な医師を育てる研修」といった研修もあり、関連医療機関で自身の気になる分野についても勉強しに行くことができました。残念ながら今年度はコロナウイルスの影響もあり行えませんでした。そうした当院の指導体制だけでなく、また違った医療機関で普段と異なる地域でご活躍されている先生方の指導を受けることもできたのは良い経験となりました。

2年間の研修は本当に充実した毎日で、関わった全ての方々には感謝の思いで一杯です。来年度からは麻酔科の道に進みますが、3年目以降もここで学んだことを活かし頑張っていきたいと考えております。本当にお世話になりました。

## 初期臨床研修医 小林 眞子

皆様のお陰をもちまして無事に初期臨床研修を終えることができたことをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

学生時代この地で学び成長させていただいたご縁と、地域の医療に貢献し少しでも恩返しをしたいという気持ちと、地域の皆様の暖かい人柄に惹かれ、米子医療センターでの初期研修を開始致しました。思い返せばあつという間の密度の濃い2年間でした。これまで、優しく熱心に指導して下さる先生方や研修医の仲間、医療スタッフの皆さまに支えられ、学びの多い充実した毎日を送ることができたことに心から感謝しております。

熱心なご指導の下で診断から治療、手技を行う機会をいただき、多くの知識と技術を学ぶことができました。院外研修や学会発表の機会にも恵まれた環境で研修期間を過ごすことができましたことを大変嬉しく思っております。

初期臨床研修期間は専門とする診療科を決定する重要な時期でもありましたが、相談に乗ってくださった皆様のお陰で今後学びたいことや目指したいものを明確にすることができ、無事に診療科を選択することができました。これから専門領域を担う1人の医師として自立し責務を果たすことに不安もありますが、頂いたご縁に感謝して日々の診療に励みたいと思っております。この2年間で皆様から与えて頂いた学びと初心を忘れず、人と人の繋がりを大切にしながら研鑽していく所存でございます。

最後になりましたが、2年間ご指導くださった先生方、職員の皆様、そして多くのことを教えてくださった患者さんに言葉にできないほどお世話になり心から感謝致しております。本当にありがとうございました。

## 初期臨床研修医 木村 彩乃

米子医療センターでの2年間の研修が終わりました。2年前、期待と不安を感じながら研修がスタートした日のことを、ついこの間のことのように感じます。

研修が始まった当初は、わからないことにつづっては何もできない自分に、もどかしさを感じたり落ち込んだりする日々が続きました。しかしその度に指導医の先生方には手厚く指導をしていただき、少しずつできることが増えていきました。そのような日々の中で、患者さんの力になれたときには嬉しさややりがいを感じ、もっと人の役に立てる医療者に成長したいと強く思うようになりました。

米子医療センターの魅力は、病院全体が活気にあふれており、患者さんの気持ちに寄り添うことのできるスタッフが多い点だと思います。このような環境で2年間研修をさせていただき、医師として必要な知識や手技もさることながら医療者としての姿勢もしっかりと学ぶことができました。また各科の垣根も低く、わからないことはすぐに各科の先生方に相談させていただけたことや、研修医の人数は少ないからこそ各々が経験した症例をすぐに共有できたことも、この病院で研修して良かった点だと思います。

日々温かく指導してくださった各科の先生方、スタッフの皆様、研修医の同期、そして地域の皆様に支えていただきながら充実した2年間を過ごすことができました。関わってくださった全ての方々へ心より感謝を申し上げます。

令和3年度からは、精神科専攻医として新たなスタートを迎えます。この2年間の経験を糧にこれからも精進して参ります。2年間本当にありがとうございました。





## 「在宅ケア研修会」を開催して ～摂食嚥下障害看護～

地域医療連携係長  
吉野 眞由美



地域医療連携室では毎年、「在宅看護・介護に生かすための専門知識・技術について学び実践に活かす」をテーマに各分野で活躍している当院の認定看護師を中心に、地域の高齢者・介護施設に従事されている看護職員、介護職員の方を対象に年12回の在宅ケア研修会を行っています。

しかし、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で研修会の開催ができない月もありました。そんな中、令和2年11月26日に当院の摂食嚥下障害看護認定看護師 醍醐愛看護師により、～口から食べる機能を理解しケアにつなげる～というテーマで研修会を開催しました。

研修では5期モデル(口から食べる機能)の特徴を知る、5期モデルが障害された方へのリスク管理を理解できる、食事姿勢や食事に集中できる環境調整について理解できるという内容について認知症患者さんの事例を紹介しながら、講義形式で行いました。

研修全体の感想として、「とてもわかりやすく参考になった。アセスメントを行って安全、安心な食事をとることが大切であると再認識した。リスクを見つける視点がより広く持てるようにしたい」「食べたい、食べさせてあげたいという思いにこたえられるように嚥下の機能を理解し、安全な援助方法を学びたいと感じた」など好評でした。

在宅、高齢者施設でも人生最期の時まで口から食べ続けたい人は多く、口から食べることは楽しみの一つであり、美味しいもの、好きなものを食べると口元がゆるみ、笑顔になります。状況が許せば最期の時まで安全に安楽に一口でも口から食べたい、食べてもらいたいという患者さん・ご家族の方の願いを実現できる看護への期待が感じられました。また「嚥下についてシリーズでの研修をしてもらうと内容がさらに深まる」というご意見も多く、摂食嚥下障害看護についての関心の高さが伺えました。

次年度はご要望にお応えし、摂食嚥下障害看護についてシリーズ化し、地域の医療者の皆さんに役立てていただける情報をお届けできればと考えております。







## 内科医長 角 啓佑

内科の角啓佑(すみ けいすけ)と申します。鳥根県松江市出身で、松江南高校を卒業し、平成19年に鳥取大学医学部を卒業しました。その後は鳥取大学医学部附属病院の第一内科(内分泌代謝内科)に入局し、同院で長年勤務してきました。糖尿病を専門としており、この分野に関してはお役に立てるかと思いますが、それ以外の分野はほとんど経験がなく、まだまだ未熟です。米子医療センターでは総合内科を担当させていただくことになりましたが、これまで全く経験がなく、先生方や他のスタッフの皆様にご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。そろそろフレッシュさに欠ける年齢になってきましたが、気持ちの面ではなるべくフレッシュさを保ちながら働きたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 呼吸器内科医 乾 元気

医師5年目の呼吸器内科の乾 元気(いぬい げんき)と申します。鳥取県米子市出身、米子東高校、鳥取大学医学部

を卒業しております。初期研修は鳥取大学のプログラムで鳥取大学と岡山の津山中央病院で1年ずつ研修を行い、平成31年より鳥取大学医学部附属病院呼吸器・膠原病内科に入局、鳥取大学での後期研修をさせていただいております。当院では内科外来、気管支鏡業務などを担当させていただきます。市中病院での勤務は今回が初めてで、外来業務や入院の対応などまだまだ不安な面が多々あるのが実情であり、皆様には多々ご迷惑をおかけすることがあるかと思ひます。

まだ勤務して数週ですが、皆様の明るさ・やさしさに触れながら、心地よく診療をさせていただき、私も早く皆様の一員になれるよう努力して参りたいと思ひます。医師としてまだまだ研磨が必要な時期ではございますが、少しでも皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 消化器外科医 岸野 幹也

消化器外科の岸野幹也(きのの みきや)と申します。鳥取県鳥取市の出身で、鳥取県立鳥取西高校を卒業し、平成29年に関西医科大学医学部を卒業しました。その後は鳥取赤十字病院で初期研修を終え、鳥取大学医学部附属病院、鳥取県立中央病院で勤務した後、この度米子医療センターに赴任させていただきました。

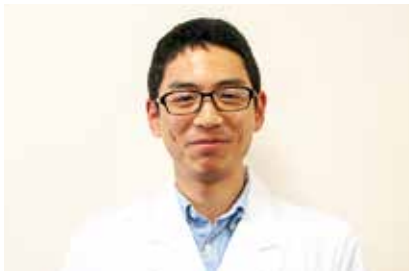
消化器外科医として、外来業務だけでなく手術や化学療法など担当させていた

できます。学生の頃より生まれ育った鳥取で医療に携わりたいという思ひがあり、大学卒業時より鳥取で働いております。地域の皆様には、安心して相談しやすい外来を目指していきたいと思ひます。まだまだ若手であり、戸惑う場面も多々あると思ひますが、一所懸命に頑張りますのでよろしくお願ひ申し上げます。



## 整形外科医 中澤 一樹

整形外科の中澤一樹(なかざわ かずき)と申します。鳥根県松江市で生まれ、鳥根県立松江北高等学校、鳥取大学を卒業しました。大学卒業後は、居心地の良いここ山陰に残り、鳥取県立中央病院で初期研修を行い、鳥取大学病院、鳥取県立中央病院を経て、この度米子医療センターに異動して参りました。骨折などを含め外傷や外来業務などに当たらせていただきます。骨折などに関しては、高齢化の進む山陰では多く遭遇する疾患であり、いつの時代になっても必要となってくる診療科だと考えております。まだまだ整形外科医として未熟者であり、ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも皆様のお役に立てるよう精進して参ります。整形外科だけにコツコツと邁進していこうと思っておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 血液腫瘍内科医師 前垣 雅哉

血液内科の前垣雅哉(まえがき まさや)と申します。鳥取県米子市出身です。後藤ヶ丘中学校、米子東高校、鳥取大学医学部を卒業しました。松江赤十字病院、鳥取大学血液内科での勤務を経て、この度、米子医療センターに参りました。自分を育ててくれた米子市で働けることをうれしく思っています。悪性リンパ腫や白血病など主に血液疾患の診療を担当させていただきます。まだまだ未熟者ではありますが、少しでも皆様のお役にたてるよう精進します。どうぞよろしくお祈いします。



## 放射線科医師 吉田 慧

放射線科の吉田慧(よしだ けい)と申します。

愛媛生まれですが、縁あって鳥取大学入学を機に米子に参りました。大学卒業後、鳥取大学医学部附属病院・松江赤十字病院での初期研修を終え、医師として3年目となります。

放射線科医として駆け出しの身でご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、米子医療センターの職員の一として

て少しでも皆様のお役に立てるよう一生懸命頑張ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈い申し上げます。



## 消化器内科医師 關 優太

消化器内科専攻医の關 優太(せき ゆうた)と申します。

神奈川県横浜市出身で、埼玉県で育ちました。埼玉県の栄東高校卒業し、鳥取大学への進学を機に鳥取へ参りました。平成31年に大学卒業後、兵庫県の宍粟市にある公立宍粟総合病院で初期研修を行い、その後、鳥取大学消化器内科へ入局し、この度米子医療センターへ配属となりました。卒後3年目で、消化器内科医としては1年目を踏み出す年であり、未熟で至らぬ点ばかりと思いますが、少しでも早く病院に慣れ、皆様のお力になれるよう精進して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお祈い致します。



## 初期臨床研修医 山本 大地

初期臨床研修医1年目の山本大地(やまもと だいち)と申します。鳥取県鳥取市出身で、鳥取西高校、鳥取大学医学部を卒業しました。鳥取で生まれ米子でも10年近くの時間を過ごしてきました。当院には実習や病院見学でお世話になり、その際の明るい雰囲気やスタッフの方々の働く姿を拝見し、当院での研修を希望しました。研修期間は始まったばかりですが、これから多くのことを学び少しでも早く鳥取県の医療に貢献できるよう日々精進して参りますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお祈い致します。



## 初期臨床研修医 徳川 慎ノ介

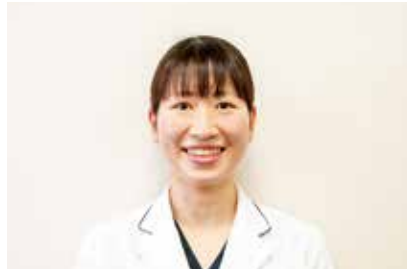
初期臨床研修医1年目の徳川慎ノ介(とくがわ しんのすけ)と申します。

鳥取県米子市の米子東高校出身で、この春鳥取大学を卒業し当院で研修をさせて頂いています。

病院見学で当院の職員の仲が非常に良く、雰囲気良かったことに強く惹かれ当院での研修を希望しました。

当初の印象通り研修が始まったばかりで右も左も分からないような自分に指導医の先生やスタッフの皆様は温かく熱心なご指導を下さり、このような環境で学べる事を幸運に思っています。

皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが自ら進んで様々な経験をさせて頂き1日でも早く手技や知識を身に付けて少しでも皆様のお力になれるよう日々精進してまいりたいと思いますので今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 初期臨床研修医 長谷川 未来

初期臨床研修医1年目の長谷川未来(はせがわ みく)と申します。

鳥取県米子市出身で、米子東高校、鳥取大学医学部を卒業しました。

私は鳥取大学医学部附属病院の「山陰たすきがけプログラム」という、研修2年のうち1年次は希望した病院で、2年次は鳥大病院で研修をする制度で当院に採用していただきました。

当院を希望したのは大学5年次に病院見学で訪れた際に先生方が熱心に指導して下さったことと、私の興味のある血液内科と緩和ケアの分野が優れていることが理由です。

未熟な点も多いですが、日々勉強しながら少しでも早く皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願い致します。



## 初期臨床研修医 植田 祐子

初期臨床研修医1年目の植田祐子(うえた ゆうこ)と申します。鳥取県鳥取市出身で、鳥取西高校、鳥取大学医学部を卒業しました。

大学6年間で慣れ親しんだ米子の地で初期研修をさせて頂けることを嬉しく感じております。研修は開始したばかりですが、早くも先生方やスタッフの方々の優しさに触れ、1日でも早く皆様のお役に立てるようになりたいと思う毎日です。未熟な点ばかりではございますが、先生方の丁寧なご指導の下日々精進しております。鳥取県の医療に貢献できるよう日々研鑽を積んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 地域医療連携室の掲示板

地域医療連携係長 吉野 眞由美

## 在宅ケア研修会のお知らせ

米子医療センターでは、当院の目標である「地域医療需要へ対応し、在宅療養を支援する」の取り組みの一つとして、「在宅看護・介護に生かすための専門的知識・技術について学び実践に活かす」をテーマに地域の医療や介護に従事されている方を対象に研修会を開催しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染対策のため、多くの研修会が中止となりましたが、その中でも「がん化学療法看護」「感染管理」「摂食嚥下」「呼吸ケア」など4回の研修会を開催しました。中止になった研修会では日頃困っておられる事例に対し、認定看護師より回答させていただいたり、資料を送付させていただきました。ご参加いただいた方からは「明日からすぐに実践できる」「日々の在宅ケアに活かせるものだった」などの感想をいただきました。また昨年度は新たに嚥下・摂食障害看護認定看護師が誕生しました。「摂食・嚥下の看護」に関しては参加された皆様のご要望にお応えし、シリーズ化して開催します。今年度も新型コロナウイルス感染対策のため4月の研修は中止させていただきましたが、昨年度開催できなかった内容や、関心の高かった内容を計画させていただきました。仕事終わりのお忙しいお時間ですが地域の方々にも少しでもお役に立てればと思っておりますので、お時間があればぜひご参加いただきますようよろしくお願いいたします。



## 2021年度 米子医療センター在宅ケア研修会

日程予定 開催予定：下記日程のとおりですが、日程変更の場合もあります  
 研修場所 場 所：米子医療連携センター 時 間：18:00～19:00



日 時	研修会内容	講 師
新型コロナウイルス感染対策にて7月以降に延期	糖尿病ケア	糖尿病看護認定看護師 遠藤朋子
5月27日	摂食嚥下 その1	摂食・嚥下障害看護認定看護師 醍醐 愛
6月24日	摂食嚥下 その2	摂食・嚥下障害看護認定看護師 醍醐 愛
7月22日	摂食嚥下 その3	摂食・嚥下障害看護認定看護師 醍醐 愛
8月26日	感染管理	感染管理認定看護師 荻 幹
9月30日	緩和ケア	緩和ケア認定看護師 大林香織
未 定	がん看護講演会	未定
10月28日	認知症看護	認知症看護認定看護師 大林眞由美
11月25日	リンパ浮腫看護	乳がん看護認定看護師 加藤麻美
12月16日	高齢者の皮膚について	皮膚・排泄ケア認定看護師 生田奈都子
1月27日	呼吸ケア	理学療法士
2月24日	がん性疼痛看護	がん性疼痛看護認定看護師 堀江千恵
3月17日	栄養管理	管理栄養士

研 修  
スケジュール

☆研修予定の1か月前には、研修案内・参加申込書を送付いたします。  
 ☆研修に対するご質問やご相談がありましたらお気軽にご連絡ください。

問い合わせ

米子医療センター 地域医療連携室  
 TEL：0859-37-3930 FAX：0859-37-3931



# 栄養管理室の掲示板



栄養管理室  
管理栄養士  
谷本 夏実

## ◇3、4、5月の「おしどり御膳」は中華料理です

米子医療センターでは患者さんの食事サービス向上の一環として、「おしどり御膳」という特別メニューを、月に2回夕食でご注文いただいた患者さんにご用意しております。1年で4回新しい献立に更新しているため、季節にあった料理や果物選びなど工夫を凝らした献立内容となっております。(特別メニューを注文される患者さんには食事代+300円をご負担いただきます。)

### ☆おしどり御膳の油淋鶏 ユーリンチー

#### 【材料(1人分)】……………【重さ(g)】

鶏もも肉……………	80	A
にんにく……………	0.2	
おろし生姜……………	0.2	
食塩……………	0.3	
こしょう……………	0.01	
薄口醤油……………	1.0	

片栗粉……………	6.0
サラダ油……………	6.0
白ねぎ……………	10.0

水……………	15	B
鶏がらスープの素……………	0.8	
おろし生姜……………	0.2	
濃口醤油……………	3.0	
上白糖……………	1.0	
ごま油……………	0.5	
かいわれ大根……………	2.0	

#### 「おしどり御膳」おしながき

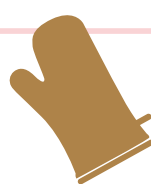
- ・米飯150g
- ・油淋鶏(ユーリンチー)
- ・青椒肉絲(チンジャオロースー)
- ・海老のマヨネーズソースかけ
- ・中華サラダ
- ・桃まんじゅう
- ・杏仁豆腐



油淋鶏作りの  
ポイントはカラッと  
揚げることです!

#### 【油淋鶏(ユーリンチー)のレシピ】作り方

- ①鶏もも肉は余分な脂身を取り除き、Aの調味料と合わせ15分ほど漬け置きする。  
(当院では2時間漬けています。)
- ②白ねぎをみじん切りにしBの調味料と合わせ、香味ソースを作る。
- ③揚げ油を170℃に熱する。
- ④①の鶏肉に片栗粉をまぶし、皮目を下にして揚げ油に入れ焼き色がいたら、裏返して皮目に油をかけながら中まで火が通るように揚げます。
- ⑤④食べやすい大きさに切り、②の香味ソースをかけ、その上にかいわれ大根を乗せる



レシピ提供:日清医療食品株式会社 栄養士 盛田美涼

第53回生(2年生)  
遠藤 はるか

今年度はコロナウイルスに始まり、今もお感染対策に気を緩めることはできません。校内における生活様式も様変わりし、ソーシャルディスタンス、教室の換気、自身の体調管理の徹底、プライベートの場における活動の制限などの日々です。講演会、宿泊を伴う研修や臨地実習も中止となり、学内での講義・演習、学内実習に専念できた半面、日々の学校生活に物足りなさを感じたのも正直なところでした。しかしその中、2年生の終わりに、関係する皆様のご尽力のおかげで臨地での実習が実現し、老年看護学実習Ⅱ(90時間)を学内実習と臨地実習の両立で履修しました。私たちにとって1年ぶりの臨地は、喜び以上に不安が大きく緊張の毎日でしたが、患者さん、指導者の方々のおかげで、充実した実習を送ることができました。

私は、今回の実習で、患者さんが望む生活に少しでも近づけられるような介入を目標に取り組みました。整形外科疾患の術後の方を受け持たせていただき、ADLの拡大に向けた看護を行いました。リハビリテーションの際にストレッチをすることに消極的な発言があったため、パンフレットを作成して渡すと患者さんはとても喜んでくださいました。そして学生が訪室すると患者さんから「ストレッチしましょう」と声をかけてくださり、一緒に毎日ストレッチを行うことができました。積極

的にストレッチをする患者さんの様子から、私は心からパンフレットを作って良かったと思いました。また、後日受け持ち患者さんからの嬉しいお手紙をいただきました。手紙には順調に回復し退院が決まったこと、学生の純粋な気持ちがうれしかったことなどが書かれており、自分のかかわりが患者さんの回復に少しでも役立つことができたと思ひ、これからの実習への大きな励みとなりました。そして改めて臨地で学ぶことの大切さを実感しました。

また、日々の振り返り会では、学生同士で共有したい学びや悩んでいることについて自由に話し合いました。今回特に、メンバーの受け持ち患者さんで、強い不安がある方や、ネガティブな発言がある方との関わり方について学びました。どのような言葉をかけるのか、どのようにかわるのかとグループ全員で考え意見を出し合いました。そして、患者さんが不安の表出をされた時に誠実に聴くこと、その患者さんの気持ちを学生から看護師に伝えること、気分転換を促す援助を行うこと、によりその患者さんは食欲やリハビリへの意欲が回復しました。私は、その患者さんが担当の学生と楽しそうに散歩をしている様子を見て、患者さんと学生との間に信頼関係が築けていたから患者さんが不安を表出することができたのだと解りました。このことから実習グループで精神面での援助の重要性を共有することができました。

この一年、どんな時であれ自分たちは医療従事者の一員になるという自覚を持つことで、様々な葛藤を乗り越えてきたように思います。いよいよ3年生です。近い将来において医療現場の力になれるよう、「**全集中 看護の呼吸 患者様の型**」で、友人たちと高みを目指していきたいです。



## 卒業にあたって

卒業生代表  
秀島 駿人

卒業を迎えるまでの3年間は、一日一日が濃く、思い出深いものでした。3年前の4月10日、将来、看護師になるという夢を持ち、私たちは入学しました。大山研修で共にご飯を作ったこと、緑水園でお互いの良い所探しをしたこと、専門的な講義に頭が重くなったこと、実習を共に乗り越えたこと、一つ一つがかけがえのない大切な思い出です。1年生、2年生と時を重ねてきましたが、3年生となってからの日々は特別でした。新型コロナウイルスの影響によって、卒業することが出来るのか、国家試験を受けることが出来るのか、漠然とした不安を胸に日々過ごしてきました。そんな時でも支えていただいたのは、実習を受け入れていただいた患者さんや看護師の方々、学校生活で勉強のことやプライベートなことまで相談に乗っていただいた先生方、事務職員の方でした。この1年間は、私たちにとって特別であり、いつも通りの生活の大切さを教えてくれました。学んだことを忘れず、これからも精進していきます。

また、家族の存在も大きな3年間でした。勉強、実習から逃げ出したかった時、いつも支えになってくれたのが家族でした。「おはよう」「おやすみ」「明日も頑張って」「お帰り」

一つ一つの言葉が支えてでした。52回生一人一人が、それぞれ家族に支えられた3年間だったと思います。春から一人暮らしをする人も多いですが、これからは社会人として、立派な姿を見せて安心してもらえようようにしたいです。

在校生の皆さん、今の生活は楽しいですか?刺激あるものになっていますか?春には1つ上の学年に上がり、求められることも多くなってくると思います。その中でも、隣にいるクラスメイトの力、先生方の力を借りながら、自分らしい看護を追及してください。皆さんには患者さんを元気にできる力があると思います。自信をもって、勉強や実習に励んでください。

私は、感情を表に出すことが得意な人間ではありませんでした。しかし、同級生に会い、180度人生が変わりました。私が52回生を一言で表現すると、「笑顔」です。つらいことがあった日も、嬉しいことがあった日も、笑顔を忘れない52回生が私は大好きです。これからは、一人一人がケアの質、看護観を磨いていき、患者さんの喜びも辛い思いも支えていける看護師になっていきたいです。





診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科		乾 元気	角 啓佑	乾 元気	關 優太	角 啓佑	
呼吸器内科		富田 桂公	富田 桂公	唐下 泰一	池内 智行	唐下 泰一	
	専門外来		交替医(肺がん外来)		富田 桂公		
消化器内科		香田 正晴	原田 賢一	松岡 宏至	香田 正晴	松岡 宏至	
	専門外来	關 優太		大山 賢治		原田 賢一	肝臓
血液腫瘍内科		前垣 雅哉	但馬 史人	但馬 史人		但馬 史人	完全予約制
	専門外来	足立 康二	原 健太郎	足立 康二		河村 浩二	【診療時間】13時~14時 予約制
循環器内科	専門外来	ペースメーカー	福木 昌治	福木 昌治		福木 昌治	【診療時間】13時30分~ 予約制
糖尿病・代謝内科		土橋 優子	土橋 優子	角 啓佑	土橋 優子	伊藤 祐一	
緩和ケア内科		八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	※新患は要予約
腎臓内科			眞野 勉	眞野 勉			
神経内科						守安正太郎	
健診		須田多香子	須田多香子	杉谷 篤	須田多香子	長谷川純一	事前予約のみ ※乳がん・子宮がん検診を除く
小児科	午前	岡田 晋一	佐々木佳裕	坪内 祥子	岡田 晋一	佐々木佳裕	【診療時間】8時30分~
	午後	佐々木佳裕	坪内 祥子		佐々木佳裕	坪内 祥子	【診療時間】15時~17時
	専門外来	林原 博 [慢性疾患] (午前) 岡田 晋一 [小児腎]	佐々木佳裕 [アレルギー]	交替医 [乳児健診] [予防接種]	坪内 祥子 [慢性疾患]	林原 博 [アレルギー]	【診療時間】午後~ ※詳細な時間は お問い合わせください
消化器・一般外科	専門外来	奈賀 卓司	杉谷 篤	岸野 幹也	谷口健次郎	山本 修	
	専門外来	杉谷 篤	杉谷 篤		杉谷 篤	杉谷 篤	腎移植・脾移植 第1. 3週のみ 予約制 【診療時間】13時~16時
胸部・乳腺外科		万木 洋平	鈴木 喜雅	万木 洋平	細谷 恵子	万木 洋平	
	専門外来	リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫 フットケア	予約制 ※リンパ浮腫の新患は 火・金曜日のみ
整形外科		南崎 剛	遠藤 宏治	大槻 亮二	南崎 剛	吉川 尚秀	
		遠藤 宏治	吉川 尚秀		大槻 亮二	中澤 一樹	
	専門外来	南崎 剛	遠藤 宏治		南崎 剛		骨軟部腫瘍
	専門外来		吉川 尚秀		大槻 亮二		火曜日：リウマチ 木曜日：関節
泌尿器科		弓岡 徹也		磯山 忠広	磯山 忠広	磯山 忠広	
放射線科		杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	
	専門外来		北川 寛				放射線治療 (完全予約制)
歯科口腔外科			谷尾 俊輔	谷尾 俊輔	谷尾 俊輔	小谷 勇	※金曜日は要相談
耳鼻咽喉科		山本 祐子		山本 祐子		山本 祐子	
眼科			佐々木慎一				
婦人科						交替医	7月~12月のみ月・金曜日

時間 (初診受付)8時30分~11時 (再診受付)8時30分~11時 健康診断受付/毎週火・水・金 予約制

診療情報提供書:FAXによる紹介状の送信先